kaede カエデ
2009 6 JUN. Vol.26
NPO法人ガーデンを考える会　会報

今月のコラム

家庭菜園ブームを考える

ハクサンインターナショナル　水野　隆

世をあげて家庭菜園ブームと言われ、連休中のどこの園芸売り場にも、さまざまな野菜苗が売り場の一等席を占拠し、まさに野菜で埋め尽くされていると言っても過言ではない状況になっていました。

家庭菜園ブームは数年前から徐々に兆しが見え始め、花を眺めて楽しむ花壇から、野菜との混植で収穫が楽しめる花壇へとじわじわと人気が移行してきていました。そんな折、中国からの輸入野菜の安全性問題や昨年の世界金融危機を引き金として、自分の庭で安心・安全な野菜作りは家計にも優しいと、新たなガーデニング熱が上昇してきているようです。また今までと違った動きとして、ここのところ、ガーデンの施工分野にも野菜を楽しむ為の要望が施主さんから増え、急遽野菜の勉強会を開く施工会社もあるようです。

おかげで従来、連休の園芸売り場の花形であった花苗は、所在無さげに売り場の片隅に追いやられてしまっているようですが、年々先細りの傾向があった園芸小売業界では、久々のスター誕生により、凋落傾向に歯止めがかかるのではないかと期待を寄せています。

さて、ブームはいつまで続くのでしょうか。ブームとは一過性のもので、どうせすぐ終わるに違いない、との声も聞かれます。特に昔から野菜に力を入れている園芸店や野菜のプロと称する人々の中にこのような声が多い。確かに、かってのイングリッシュガーデンブームの時のように、カラフルなラベルで、いかにもとのネーミングでの色々な野菜が売り場に登場している様は「本当に消費者のことを考えているの」との？マークが付くものも少なからずあるようです。例えば、フルーツトマトと一概に言っても、フルーツトマトの定義がある訳でもない。作り易いトマトと言っても、営利栽培用に品種改良されたF1品種が主流の大玉トマトは、なかなか一般の素人にはうまく作れないものなのです。また、ホームセンターを始め、多くの園芸店には野菜の作り方を知っている専門家が殆どいないのが現状です。このような環境で、結果としてうまく作れなかったり、収穫した野菜がおいしくなかったとしたら……あのイングリッシュガーデンの「いつか来た道を」辿ることにもなり、そしてブームはたちまち終わってしまうかもしれません。

ブームを定着させるには、新しく家庭菜園に参加する消費者をいかに満足させるかにかかっています。しかも、今後20数年に渡って増え続ける高齢者が潜在的な需要層となる可能性が高く、いわゆるビジネスとしてのポテンシャルが非常に高い分野なのです。また、菜園の参加者は、本当においしくて簡単に収穫できれば、その品種や購入した園芸店のロイヤルカスタマーになっていただける率が極めて高いのです。

最近では、本当に誰でも特別な道具や知識がなくとも簡単に収穫でき、しかもおいしい品種がたくさん出てきています。参考書を読まなくっても携帯電話でピッとすれば、簡単な作り方がわかるラベルがついている野菜苗も販売されるようになってきました。また、都市近郊の庭のスペースが限られているところでも出来る品種や、それらをサポートするプランターや資材も充実してきています。

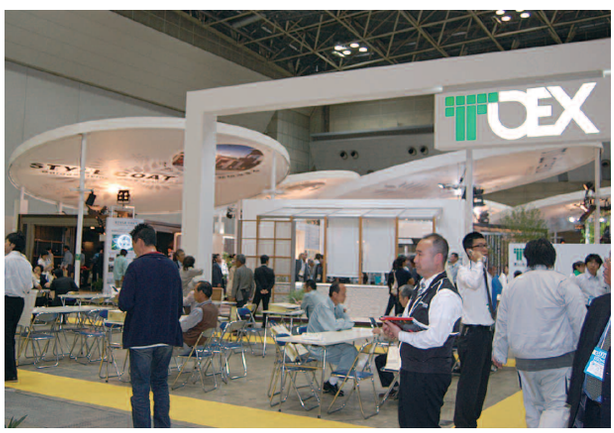
とにかく、かっての轍を踏まないようにするには、間違いのない情報を、作る側にも売る側にも共有してもらうことがまず大事です。そして、ビギナーを味方に取り入れるには、栽培に取り掛かるための不便さを取り除いてやる仕組みや、便利な材料が簡単に手に入れられることが肝心です。また、収穫した野菜をおいしく楽しく利用できる方法等をも併せて発信していく工夫が欲しいものです。

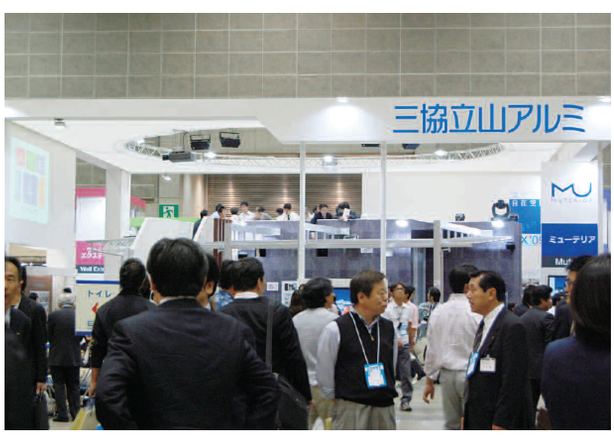
Exterior　Exhibition　2009

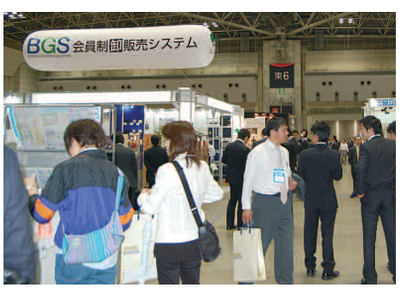
東京ビッグサイトで盛大に開催

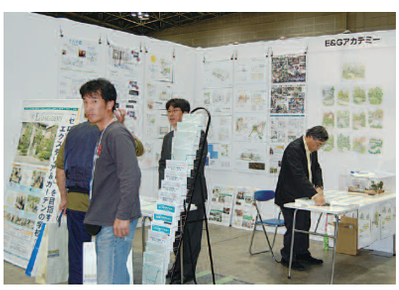
国内最大のエクステリア(EX)展示会で、5回目を迎えたEXE(エクステリア・エキシビジョン2009)が5月8・9日に東京ビッグサイト、東5・6ホールで開催された。参加企業は7社増の52社・団体と過去最大の企業参加となり、各ブースでは、今年の新商品や新提案が並び、商談にも一段と熱がこもった。

入場者は、前年をやや下回る1万3千人余であったが、例年同様、工事店、建材店、販工店、造園業者、設計事務所など業界関係者が参加する中、チラシなどによる一般ユーザーへの動員を図った結果、ユーザー動員数が10%を占めた(前年3%)。









当会・EX系会員の多くが出展したEXEの展示会場

ミニチュアガーデンコンテスト好評

淡路・奇跡の星の植物館

兵庫県立淡路夢舞台温室奇跡の星の植物館で08年11月8日～１月18日、「全国ミニチュアガーデンコンテスト」の作品が展示され、期間中約3万５千人の来館者を楽しませた。

コンテストは、誰でも手軽に楽しめるミニチュアガーデンを通じて街並みや景観、家庭などの花壇づくりに視野を広め、都市緑化に関係する園芸・造園産業に展開に資することを目的に開催された。1～2㎡のミニチュアガーデン５作品を展示。

グランドチャンピオンに輝いたOZガーデン（鳥取）キッズガーデニングスクールに通う子どもたちの作品「がっこうのにわ」に対し、植物館プロデューサー辻本智子氏は、「ミニチュアガーデンを創ることによって、子どもたちの中に潜む能力がどんどん磨かれていくことを実感します」と話している。

グランドチャンピオンの作品

ニュース

JFIトレードフェア豊明

前年より出展、来場とも大幅に増え、最大に

鉢物扱い量最大の豊明花き(柏村哲徳社長)は、2004年より豊明花き単体でトレードフェアを春と秋の年2回開催してきたが、2007年秋よりFAJとの共催によるJFIトレードフェアに内容を拡充して春と秋開催。

年々出展者数、来場者数とも増加しており、3月7日の「2009春」の出展ブースは、過去最高の207団体・社、556区画と、区画で前年比12%増、また、来場登録者数は1058人と同30%増と大幅に増え、過去最大規模で開催した。

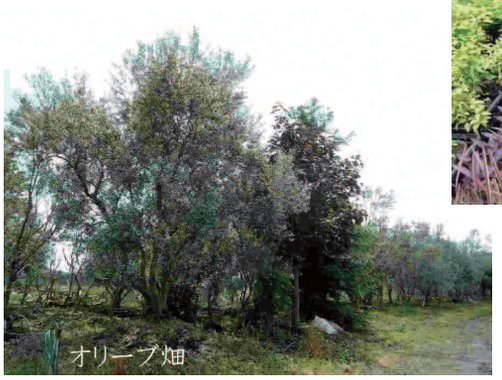
過去最大規模で開かれたJFIトレードフェア豊明会場

会員紹介

浅見園

当園は、多様なガーデンスタイルの創造に携わる方々に良質の植物アイテムを提供しています。水辺を彩る水生植物やビオトープ植物・宿根草をはじめ、シンボルツリーとして観賞価値の高い大きなオリーブまで様々なガーデンプランツを豊富に揃えて庭造りを応援しています。

お問い合わせ
〒334-0001 埼玉県鳩ヶ谷市桜町2-12-14
TEL 048-281-3507
FAX 048-281-3976
URL http://www.asami-en.com



オリーブ畑

豊富なガーデンプランツを揃えております。よろしくお願いします。

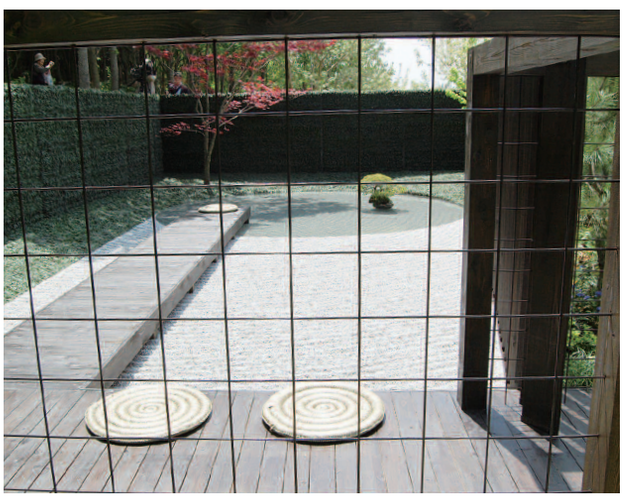
浜名湖フラワー＆ガーデンフェア2009

19万人余が楽しむ

浜名湖花博開催から5周年を記念して開催された「浜名湖フラワー&ガーデンフェア2009」は海外からのデザイナー出展の庭もあり、国際園芸家協会認定イベントとして5月1日～5月10日、浜名湖ガーデンパークにおいて開催され、予想の15万人を大きく上回る19万人余が花と庭を楽しんだ。

会場は世界一流のガーデンデザイナー８名が庭づくりを競うワールドガーデンコンペティションをはじめ、屋外では22のイベントがくりひろげられた。

体験学習館での屋内イベントも伝統園芸植物展示やいけばな展など24の展示やデモンストレーションなどが行われたが、オランダの学校と県立農林大学校の若い学生によるフラワーアレンジのデモンストレーションが人気を集めていた。



しずおかガーデン大賞を受賞した
西山 大吾氏(内山緑地建設)の「五感を癒すランドスケープ」

洋風、和風の庭が展開された

オープンセレモニー

子供も多く訪れた

作る過程も審査対象となった
ハンギングバスケット決勝会場

事務局だより

ガーデンを考える会
事務局　TEL 052-571-7911
FAX 052-571-2208

5月には、 浜名湖フラワー&ガーデンショウ、 国際バラとガーデニングショウを見に行ってきました。いずれも多くの人出で、みなさんが楽しんでいる姿を見ていると、この業界で仕事ができてよかったと感じます。